

「選挙は新聞への政策発表とテレビの討論だけで」

選挙を新聞等への政策発表とテレビ等での討論だけにすべき。みなさん、政治家に必要な資質って何でしょう。私は、世の中をどうしたいかを考え、みんなに説明し、実行していく力だと思います。今の選挙でそういった人が選ばれているのでしょうか？例えば今回行われたあわら市議会議員選挙では、私は現職 18 人に政策についてアンケートでお聞きしました。返信していただいたのは 4 人のみでした（詳しくは、加納病院のホームページの「あわら市改造計画」にすべてを載せています）。新聞での選挙前の「公約」も、私のフェースブックで書いたように、紙面の関係もあるでしょうが、比較的具体的なものは 2 人のみだったように思います。それでは、各候補のホームページに政策が書いてあるかと思い、検索してみましたが、書いてある候補はほんの数人で、しかも具体性には乏しいものでした。つまり、私のように政治に興味があり、一生懸命調べたところで、数人の考えしかわからず、あとは、何をしたいのか、何で立候補したのかは、よくはわからなかったのです。選挙で上位当選した方と、しっかり政策を述べていた方とは必ずしも一致していませんでした。少なくともあわら市の選挙は、区の推薦と同窓会の人脈により得票が伸びる傾向があるように思います。これは、どの選挙でもある程度言える事なのではないでしょうか？

選挙の洗礼という事で、いわゆるどぶ板選挙は政治家の資質を向上するのでしょうか。全く関係ないとは言いません。しかし、本来は政策を考え提案し、討論し、実現していく能力は、より大事なのではないのでしょうか。そこで、その能力を試す選挙活動として、新聞等で自分の考えを発表し、テレビ等で討論をして、基本的にそれ以外の選挙活動は禁止する、という選挙活動にしたらどうでしょうか。「朝まで生テレビ」等の討論番組を見ていると、政策に関する討論では、政策そのものの考えのほかに、その人の性格、政治家としての資質も透けて見えます。この方法にすると、今の地盤（後援組織）、看板（知名度）、カバン（資金）よりも、その人の能力そのものをより推し量れるようになるのではないかと思います。いわゆる 2 世政治家も激減するでしょう。

私は、政治家としての能力を政策立案力、説得力、実行力とするならば、それを推し量る選挙方法として、政策発表、討論のみに限定する選挙を提案します。